

道徳

教えて！加藤先生

教えて！土田先生



筑波大学附属小学校教諭

加藤 宣行

『小学道徳 ゆたかな心』(光文書院)監修者

千葉大学教育学部教授

土田 雄一

『小学道徳 ゆたかな心』(光文書院)編集委員

道徳ノートの 効果的な活用方法



誌上チェック&アドバイス 道徳授業Q&A

道徳ノートを使うメリットは、学習内容を視覚化・顕在化できるということです。そして、それは授業中も授業後も可能です。授業中に書きながら考え、まとめをする。その思考プロセスを残すことで、授業後も容易に想起しやすくなり、学習や授業が終わっても継続して蓄積されていきます。書くことによって、自分の思考が整理できるので、頭で考えたり話し合ったりしたことが、明確になります。そしてそこから、思考がさらに発展していくようになります。

道徳ノートには、上記のような学習効果が期待できます。なるべく自由度の高いものにして、なおかつ基本的には子どもたちに持たせ、使い方も任せましょう。

形に残っているので、友達同士で見合ったり、教師が必要に応じて確認したり、コメントを書いたりすることが可能です。個人内の思考の深まりを、成長の記録として見取り、評価に生かすこともできます。

道徳科元年。教科書を活用した道徳授業がスタートしました。千葉県内教員への「特別の教科道徳充実のための小・中学校教員ニーズ調査」(松田・土田・2018速報値)によると、「道徳授業をする上で難しい点」では、第1位が「発問」、続いて「指導方法」「終末(まとめ)」の順でした。教科書教材を活用しながら、道徳的ねらいにせまるための発問をはじめとした授業構成に悩む先生方の姿が見えます。発問を含む授業構成は、ねらいや教材、児童の実態等によって変わりますが、常に目の前の子どもたちの状況を踏まえつつ、その子の成長を願って考えていきたいですね。

教科化を前に、「やらされた道徳の研究でしたが、やり始めたら、子どもたちも変わりました。今は私も道徳が楽しくなりました。」と話す先生に会いました。「考え、議論する道徳」「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現は子どもたちのため。実践をもとに私も一緒に考えていきます。